

中間支援事業の現状と本助成金を受けての展開について

1. 今年度の相談支援体制

- (1)日 時 完全予約制。広報は、主にメールニュースと、ホームページ、フェイスブック、口コミで。
- (2)場 所 ほんまち事務所(三田市三田町 29-14 旧ヨネダ洋品店内)ほか、相談に応じて出張対応も
- (3)支援員 大島 一晃(理事・事務局長)、佐藤 等史(理事)、
長谷川 計二(理事長・関西学院大学教授)、地域住民のプロボノによる支援(1名)

(4)相談支援メニュー

- ・法人設立のアドバイス、認定 NPO 法人取得支援(事務局長がこれまで 21 団体の認定 NPO 取得支援実績あり)
 - ・事業計画・報告書作成支援・実務支援(労務・登記・経理) → 三田で初の認定取得法人を伴走型支援(2017)
 - ・「意欲する人」のゆるやかなネットワークづくり支援(交流研修会、子ども支援団体連絡会など)
 - ・NPO 関連制度や事例、助成金情報、人材紹介等の情報提供および企画相談・広報の相談支援
 - ・法人の継続的発展に向けた組織体制強化のための支援 ~特に、子どもの居場所づくり支援
 - ・キャリアコンサルタント資格保有者による、NPO ではたらく人のキャリア支援
 - ・地域の居場所づくり/地域の子どもの地域住民で支える仕組みづくりへの支援
 - 居場所づくり・サードプレイスの立ち上げを希望する方への相談支援
 - 学習支援や子ども食堂の立ち上げを希望する方への相談支援(三田・北神区など)
- ※立ち上げ相談が増えている。直接支援・間接支援とも実施する団体として支援に取り組む。

- (5)相談料 1回 2000 円(約 1 時間。初回無料)→本事業助成金を活用し、相談料を 1000 円に

2. 講座

- (1)NPO 事務力アップセミナーvol.4「NPO と個人情報保護～まず知って、できることの一步目を考えよう！」

テーマ	日時	場所	講師	参加者数
①「改正個人情報保護法」を知る	2021年10月4日(月) 19:00-20:30	オンライン	大島一晃(事務局長)	8名
②オフィスや活動現場の情報セキュリティ対策を考えよう	2021年10月18日(月) 19:00-20:30	オンライン	大島一晃(事務局長)	8名

3. 企画立案事業

「非都市部 NPO の事務力向上に向けた実態調査及びスタッフのキャリア支援モデル構築事業(2年目)」

(対象: 神戸(北神区)、阪神北(三田・猪名川)、北播磨、中播磨(姫路を除く)、西播磨、丹波、但馬、淡路の NPO 法人)

- NPO 法人のおよそ 40%が年間収益 300 万円未満。規模別に必要とされる支援メニューに違い。
- 「経理・労務・税務」、「個人情報保護」、「接遇・マナー」、「NPO のミッション理解」、「活動テーマについての理解」、「キャリア形成支援」について、いずれも「独学で学んでいる」か「組織の支援がない」と回答した法人が半数を超え、特に小規模法人ほど研修が行われていない実態がある。
- 21 年度は、圏内の団体にインタビューを行い、事務支援のあり方を模索した。
- 3月に講座開催予定

在住外国人の孤立を防ぎ、仲間づくりができる場づくりプロジェクト

毎週水曜日18:30-20:00@北神区文化センター
北神日本語教室を開催

生活に必要な日本語を同じ地域に暮らす日本語ボランティアから学びながら、日常生活の困りごとなども相談できる「場」を作っている。参加者は主に、技能実習生や企業で働く外国人従業員など。北区北神地域や西宮市北部には多様な背景をもつ外国人が住んでいるが散在しており会社と家の往復の外国人も多く同胞と会うこともなかなかなかった。日本語教室の参加をきっかけに同胞と知り合い母語で話す機会もあり、心が穏やかになっていく学習者もいた。コロナ禍においても、感染対策を講じながらオンラインではなく対面にこだわり活動をしている。それはコロナ禍の中で国に帰国できない辛さや行動制限の厳しさなど慣れない日本の生活の中、苦痛も感じている状況を直接会うことで話を聞き少しでも心を安らげてもらうためである。実際、緊急事態宣言解除後教室活動を再開した時は会える喜びをとびっきりの笑顔で表現してくれた。



感染対策をしながらの活動

また、地域に外国人が増加していることを受け、北区有野台地域の民生児童委員さん対象の勉強会も企画したが実施直前に新型コロナウイルス第6波の影響を受けてあえなく中止に。しかし、地域の変化を感じ取り同じ地域に暮らす外国人のことを学ぼうとくださった姿勢に感謝し、引き続き勉強会の実施に向けて考えていくつもりである。

今後も様々な業種、様々な場面で地域に暮らす外国人と出会うことも増えてくると思われる。縁あって地域に暮らすようになったが、友達がいない、相談できる相手がいないといった外国人もいるであろう。しかし、日本語教室という地域住民との接点を持つ場に参加することで多彩な人脈も築け、多様な人が同じ地域に暮らしていることも知れ、何より、日本人住民が自分たちのことを気にかけてくれているということを知れることが心強いのではないだろうか。

このような場を通して、異文化理解を促すことは「いち地域住民」として外国人を受け入れていく際に差別などを生み出さない心の勉強にもつながっているはずである。外国人が集まりやすい場所に作ることも大事であるが、小さな地域単位で少人数であっても長く細く息の長い活動ができるような環境作りも必要と思われる。その実現には、地域の理解のみならず行政の理解も益々必要になってくる。



日本語支援活動を通じたお互いの学びの場に

2021 年度ひょうごボランティア基金助成事業報告資料

外国につながる児童・生徒支援事業のオンラインによる情報提供システムの構築 ～就学前から自立まで～

兵庫県在日外国人教育研究協議会

1 事業がめざすところ

兵庫県外教の外国につながる児童・生徒を支援する事業や研究集会などを他団体・機関と連携して開催し、その情報と成果をオンラインで発信するとともに、必要な情報をインターネットで提供する。ネットワークを広げ、連携を進めることで、外国につながる児童・生徒の教育や進路指導を長期的・継続的に支援し、自立につなげる。

2 活動内容（主なもの）

5月 定期総会 7月子ども作文コンクール募集・兵庫県在日外国人高校生交流会

8月 「高等学校における外国人生徒の支援にかかる研究会」(Zoom)

10月 東京学芸大学文科省委託事業 ハンドブックについて報告 (Zoom)

11月 全国在日外国人教育セミナー・たからづか民族まつり

12月 なかよし加古川マダン・子ども作文コンクール表彰式 (神戸市・中止)

2月 第27回県外教研究集会 オンライン配信

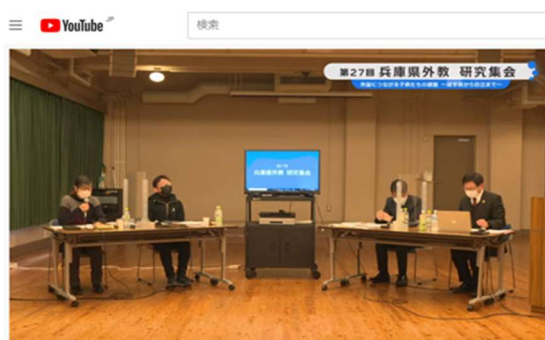
シンポジウム「外国につながる子どもたちの課題～就学前から自立まで～」

兵庫県在日外国人高校生交流会・多文化進路ガイダンス (中止)

不定期 事務局会議・運営委員会・『ともに…』編集会議・発送・オンライン研修と報告
HP改修作業・相談事業・行政や支援団体との情報交換など



高校外国人生徒の支援研究会 Zoom (8月)



研究集会オンライン配信画面 YouTube (2月)

3 成果と課題

今回の事業が全国共通の課題であるため、主にオンラインのセミナーやシンポジウムで全国規模の研究ができた。2月の研究集会は昨年同様オンライン配信(TouTube)とし、ライブ視聴は100名でその後も配信数が伸びている。コロナ禍で外国につながる児童・生徒の教育や生活が危惧される中、小・中学校、高校、その後の進学・就職など年齢段階別に情報を見える化し、切れ目ない支援をテーマにできたのは、大きな成果と言える。

4 今後の課題、成果の活用

メンバーが現職の教員で多忙な中、ようやくホームページ改修に取り組み始めたところである。ハンドブックのコンテンツの一部、必要な情報のデジタル化を3月末までに完成することを目指している。多くの教員、行政、関係機関や団体との関係をさらに深めたい。

右：県外教フェイスブック



難民申請者等の生活と権利を守るためのプロジェクト

NGO 神戸外国人救援ネット

1 事業が目指すところ

日本で暮らす外国人が増加する中、難民申請を行う外国人も多数存在するが、難民として認められる人は極めて少なく0.4%程度である。不安定な在留資格のまま、生活に困窮してホームレス生活や悲惨な生活に追いやられる方々もいる。法律的なサポートだけでなく、住居、生活費、医療、社会保障など、生活そのものに関わるサポートが必要である。最近では中東やアフリカなどからの難民申請者が神戸でも増えており、救援ネットにも相談が寄せられている。神戸のまちは、白系ロシア人、ユダヤ人、濟州島4・3事件避難者、ベトナム人など多くの難民を受け入れ、今日の神戸のまちを共に築き上げてきた。本事業では、現在の神戸で暮らす難民申請者への総合的サポートを行うことと、「難民と神戸」の歴史を学ぶことを目指す。

2 活動内容

◆難民申請者等に対して、以下のようなサポートを行う。(随時)

- ・弁護士事務所や各種関係機関への同行、通訳の派遣
- ・各種手続きのサポート
- ・住居の確保
- ・食料品や生活用品の提供など)
- ・その他日常的な相談と支援

◆「難民と神戸」を学ぶ講演会をオンライン(zoom)にて開催
2022年2月26日(土)13時半~15時半

「神戸のユダヤ難民」/講師：金子マーティンさん(日本女子大学名誉教授)

◆「難民と神戸」に関する情報収集と、リーフレットの作成



3 成果や課題点

◆成果

シリア、チュニジア、ウガンダ、ガーナ、ブルキナファソ、セネガル、ギニア、カメルーンなどの難民申請者へ、物資配布、同行・通訳支援を実施することができた。

◆課題

当初は、昨年度のように「難民と神戸」を学ぶ講演会と北野周辺にある関連施設(宗教施設や当時の住居など)をめぐるまち歩きを予定していた。しかし、オミクロン株による感染拡大により、まち歩きは中止。講演会もオンライン開催へと変更になってしまった。

『難民と神戸』を学ぶ 講演のご案内

神戸のユダヤ難民

神戸のまちは白系ロシア人、ユダヤ人、濟州島4・3事件避難者、ベトナム人など多くの難民を受け入れてきた歴史を持っています。

杉原千景「命のビザ」の話をご存知ですか？アジア・太平洋戦争の時期には、このビザでナサの迫害から逃れたユダヤ人難民のうち、約4600人が神戸にやってきて、第二次世界大戦を生き延びました。今回の講演会ではその歴史を学びます。

神戸にやってきた難民が街の発展に果たした役割を学び、知る中で、現在の日本での難民申請者が置かれたあまりにも厳しい状況への理解をすすめるともに難民申請者に活かす社会をつくっていきたくと考えて、この企画を行います。ぜひご参加ください。

開催方法 オンライン ZOOM

日時 2022年2月26日(土)

講演会 13時30分~15時30分

「神戸のユダヤ難民」

講師 金子 マーティン さん (日本女子大学名誉教授)

金子 マーティン (かねこ マーティン、Kanako Martin)
1949年生まれ。オーストリア出身の社会学者、日本女子大学名誉教授(社会学)。ヨーロッパ史・現代社会思想を専攻。特に歴史学に関する研究で、『口マ島の伝説とオホコースト』を著している。『神戸・ユダヤ人難民1940-1941-「禁止」される移民・日本の難民入国史』(2003年、みずのわ出版)などの著書がある。

お申込み方法
参加希望の方は下記の google フォームよりお申込みください。(QRコードからも読み取れます) 開催日前日までに参加のための URL をお送りいたします。

【お申込みフォーム】 <https://forms.gle/6B9W5mc16F6t9hC8J6>

【お申込み】 2022年2月24日(水) 締切

【参加費】 無料

【主催】 NGO 神戸外国人救援ネット (神戸市中央区中山手通1-28-7)
TEL:078-271-3270 e-mail:gnnet@poppy.ocn.ne.jp

この企画は、ひょうごボランティア協会協賛事業の助成金を受けて実施しています。

様々な困難を抱えた方の日常生活支援事業

NPO法人 神戸の冬を支える会

1, 事業の目的、趣旨

アルコールや薬物依存症、ギャンブル依存症、認知症、発達障害など様々な問題や生きづらさを抱え、生活費の浪費や近所とのトラブル、地域からの孤立、家賃の滞納、万引の繰り返しなど日常生活に困難をきたす方に対して、生活破綻を防ぎ、安心して日常生活が送れるような具体的な支援活動を通じて問題の本質を見抜いて解決を図る。

2, 事業の方法

○制度の谷間に落ちて支援が行き届かない現状

- ① フォーマルな制度の枠組だけでは支援しきれない問題を抱えた人を支援
- ② 関係機関と連携しながらインフォーマルなサポートを組み合わせて支援
- ③ 困難を抱えた方の生活と人権を守っていくことが必要
- ④ 過去3年間の事業「刑事施設釈放者の生活再建と再犯防止のための事業」の成果と課題を踏まえての事業
- ⑤ 食糧支援。金銭管理、住居確保支援、刑事施設釈放時の支援など



3, 具体的な活動内容

① Sさん（70歳代）の場合

車上生活を送る中で車検切れの車の運転で逮捕されたことを契機に支援に関わる。居宅確保、生活保護受給、金銭管理などをする中で安定した生活を送っていたが、最近配食サービスが置いたままになっていると連絡があり自宅訪問。健康状態が悪化し倒れているところを発見、救急搬送。



② Yさん（40代男性）の場合

ギャンブル依存、アルコール依存、精神疾患で保護受給中であるが、保護費、年金は受け取って2-3日で消費。家賃滞納を繰り返すため金銭管理契約を結び、各種支援を実施。社会的逸脱行動が多く、行政や近隣からも見捨てられそうになり、失敗を繰り返しながらも、生活を維持。

③ 60歳代の女性の場合

ストレスから殺人未遂事件を起こす。裁判で情状証人。服役中も連絡を継続。刑務所、保護観察所、弁護士、不動産会社などの協力を得て、満期後居宅確保。知的能力はボーダーで日常生活のすべてのステージで様々な支援を実施し、生活を支えている。

④ Aさん（70代）の場合

認知症が進む中、何者かに騙されて年金を奪われホームレス生活に。万引を繰り返し服役。服役中に当会と刑務所と連携し釈放後の生活について協議。満期釈放後、すぐに住居確保、介護保険手続。現在は介護保険を利用しながら当会が金銭管理をする中で多くの方に支えられ居宅生活を送っている。



⑤ その他の事例

心身を病み無収入になる中で住宅ローンが支払えず自殺未遂。入院中に病院から支援依頼。競売となった住居の片づけ、新たな住居の確保支援、生活保護申請、債務整理などの支援。

成果と今後の課題

約100人の方に延べ数百回の支援の実施。

- ① 支援制度もなく、支援が受けられないことにより生活が成り立たない方へのサポートの必要性。制度の枠で考えるのではなく、対象者のニーズからの発想。特に社会的に理解を得にくい方々であるからこそ支援が必要。
- ② 生活や権利を守るためにはフレキシブルに行動し、何でもするというスタンスの重要性。関係機関への同行、手続支援、食糧支援、訪問など。
- ③ まず行動。関係機関との連携。信頼関係は実際の支援活動を展開する中で生まれ、支援する中でさらに支援の輪が広がる。
- ④ 制度の谷間を埋める活動は社会的に必要な活動。放置による複雑化、深刻化を防止。支援を手探りでも実行していく中で新たな社会的に必要な制度創出への手がかりとしていくことを目指す（ソーシャリアクション）。

R3年度 中間支援事業報告資料

NPO 法人 シンフォニー

事業を行う

背景



2. ネットワーク構築
リーダーシップ強化

1999年7月
法人格取得

1995年阪神大
震災から発足



(コロナ禍)

1. ステップアップによる
ノウハウが積み重ね

ポスト資本主義の
視点で、SDG s の
実践に取り組み



3. 自立と共生をテーマに 新
しい市民社会の創造を目指し

専門員による設立・運営等の相談
一般相談（生活相談を含む）

相談事業

SNSを活用した団体との連携

情報提供

オンライン業務効率仕組強化
地域リーダー研修

人材育成

企画⇄運営⇄事業報告⇄決算

書類指導

イベント事務・裏方支援、
ボランティアマッチング

その他事業

内容

基本事業



成果と
今後の展望

- ① 地域団体や NPO のオンライン対応支援を拡充してきた。
- ② 地域団体と企業との連携促進を進めきた。
- ③ NPO や地域活動のフィールドで外国人を戦力として活用

※コロナ禍の中、今後の展望として、「新しい生活様式」を考え
しつつ、地域活動のスタイル変化に力を入れて支援していく。

コロナに負けない地域住民ふれあい支え合いまちづくり

特定非営利活動法人 ASUネット

1. 事業が目指すところ

地域の高齢化が進み工場の撤退などで活気を失った尼崎市塚口地域において商店街の古民家を活用し、地域の高齢者や生活困窮者への支援につながる講座等を実施し、地域の活性化を図り、まちづくりにつながる取り組み全般をリードしていくことを目指す。



習字教室

2. 活動内容

- ・しゅうこうの寺子屋書藝塾による習字教室(11/21.28 12/5.19 4回)
- ・一閑張り教室(11/21 12/19 2回)
- ・手作り折り紙教室(10/3 11/17 2回)
- ・小中学生のオンライン学習支援教室(11/24 12/4.18 3回)
- ・パソコン・スマートフォン教室(11/20 12/4. 2回)
- ・DIY体験学習教室(11/28 12/12 2回)



折り紙教室



DIY体験学習

3. 成果や課題点

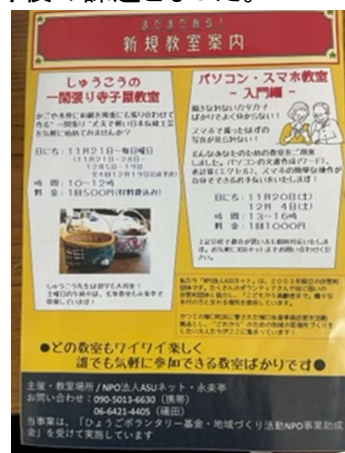
新型コロナウイルスの影響などで仕事をなくし、生活困窮者や引きこもりが増加している昨今において、地域住民、連携団体と歴史ある旧永楽商店街空き店舗を再生して、様々な活動を通して大人、子ども達の居場所づくりができた。

長引くコロナウイルス蔓延の影響で当初は参加予定していた人達の都合や体調不良のため集まる人数や回数が減り、事業計画に対する達成度は不十分な点もあった。

同じ理由で準備不足な部分もあり、広報の仕方に工夫が必要であることが今後の課題となった。

4. 今後の展望、成果の活用

実績や専門のノウハウをもつ参加団体やボランティアの協力で得た今回の事業実績ををもとに、今後はさらに地域の諸団体、NPOと連携して時代のニーズに合った取り組みにつなげていく。



案内のチラシ

(特非) 認知症予防サポートネット 「認知症予防脳はつらつ実践講座」

1. 事業が目指すところ

高齢者社会となり認知症の方は 65 歳以上人口の 15%、その予備群は 13%に達すると報告されており、その予防は大きな社会的課題となっています。認知症は抑うつ、低身体活動、糖尿病、高血圧などの生活習慣と密接に関連して、15 年～20 年の長い年月を経て発症するもので、令和元年 6 月に発表された政府の「認知症施策推進大綱」でも、認知症予防活動の推進が挙げられています。多くの方は認知症に対して関心を持っていますが、具体的な予防方法を日常生活の中に取り組みするのは難しいのが現状です。

そこで、地域の老人会や自治会、公民館と協働して啓発活動を行います。

講座では奈良学園大学保健医療学部と協力して、コロナ禍での生活習慣等に関するアンケート調査を行います。

2. 活動内容（参加人数）

令和 3 年 12 月 13 日	香櫨園市民センター (20)	「楽しい音楽療法で脳はいきいき」
令和 3 年 12 月 17 日	伊丹市スワンホール (30)	「椅子に座って出来るフレイル予防体操」
令和 3 年 12 月 24 日	伊丹市スワンホール (40)	「認知症予防と生活習慣」
令和 4 年 1 月 17 日	瓦木公民館 (30)	「楽しい音楽療法で脳はいきいき」
令和 4 年 1 月 18 日	香櫨園市民センター (10)	「椅子に座って出来るフレイル予防体操」
令和 4 年 1 月 19 日	尼崎市大庄北生涯学習プラザ (60)	「認知症予防コント劇“ぼけたらあかん”」
令和 4 年 1 月 25 日	伊丹市稲野センター (15)	「認知症予防と生活習慣」
令和 4 年 1 月 26 日	芦屋市民センター (25)	「認知症の薬と太極柔力球」
令和 4 年 2 月 2 日	尼崎市大庄北生涯学習プラザ (60)	「認知症予防講座」



3. 成果や課題点

多くの参加者から「参考になった」との感想が寄せられました。伊丹市スワンホールでは職員さん達が動画撮影をし、別会場と在宅（Zoom）でも参加できるように出来たことは新しい講座の在り方になったと思います。尼崎市大庄北生涯学習プラザで行った「認知症予防コント劇“ぼけたらあかん”」は素人劇ながら好評でした。

コロナ感染の第6波が猛威を振るっており、中止や参加者を大幅に減らすなどの対応が必要でした。

4. 今後の展望と成果の活用

生活習慣に関するアンケート調査を行い、約150名からの回答を頂きました。これを奈良学園大学で分析、評価し9月に福岡市で開催される第11回日本認知症予防学会の一般演題として発表すべく準備します。



高齢者向けスマホ操作技術普及事業（助成事業名）

NPO 法人健康・生きがい就労ラボ

1. 事業が目指すところ

背景)

ウイズコロナ、ポストコロナの時代のもと、DXに対応した生活者であることが求められている。しかし、教えてくれる家族などがいないなどの状況にある高齢初心者が取りこぼされた状況であるにも関わらず、**使わないと生活が難しくなる状況に追い込まれつつある**。しかし、docomoなどのキャリアの教室は、自身が使用している機種とは異なり一般的な機種での座学が中心。また、覚えたことを忘れやすいというシニアの特性にあった学習方法を採用していない。

事業企画) 高齢者視線に立つた講座運営

- ①受講者2～3人に1人の割合で、受講者に近い年齢のチューター（サポーター）を配置する
- ②自身のスマホの機種に合わせて、グルーピング
- ③一般的な知識を得る前に、自身のスマホを知る
- ④学んだ学習が定着しやすい教え合えるようグループ演習方式
- ⑤シニアが見やすく、携帯しやすいオリジナルテキスト
- ⑥高齢者のスマホ使用のリスクやブロック対応法を紹介
- ⑦講座後のスマホライフを支援するアプリの紹介や提供
- ⑧忘れても再度学習する機会を何度も設ける
例：スマホカフェ、homecoming ディ
- ⑨教え合うことが一番の学びであることから、「あなたが学ぶことで、社会貢献できる」と志を持って学んでもらえるようチューターを育成
- ⑩シニアチューターを高齢者のプチ仕事（最低賃金以上）と捉え、高齢者の新たなプチ就労分野として活躍の場を提供



チューターがきめ細かく寄り添いながら実習

同じ機種でグルーピングし、講師が学習項目をファシリテート



カメラ機能の実習に近隣へ撮影実習



受講生のクチコミで評判を呼び他行政機関からも見学相次ぐ、朝日新聞社などのマスコミの取材も



オリジナルテキスト



あなたがスマホを「学ぶ」ことで、社会貢献ができる！
参加費 500円
テキスト代

チューター候補養成講座3日コース開講！

チューターとは、シニア初心者向けスマホ教室のサポーターとして活動していただける方で、有償ボランティアです。年齢50歳以上の方で、当団体主催の初心者シニア向けスマホ教室をサポートする方を育成する講座です。

2021年12月14日 12月21日 2022年1月11日
全3回コース
18:00~19:30

ソリオ2 宝塚市立男女共同参画センターにて開催
全ての日程を受講した方には講座修了書を行います。

申し込みは、QRコードで申し込みフォームへ
主催：NPO 法人健康・生きがい就労ラボ
後援：宝塚市

<チューター候補 養成講座チラシ>
コロナ禍にも関わらず
また、広報期間が10日程にも関わらず受講生が集まり、
チューター候補が16名誕生。
2回の実習を経たチューターも誕生し、学びの輪は拡大

2. 活動一覧

	項目	実施日	参加者
1	プレミア宝塚スマホ講座		
	初めての人向けスマホ講座（2回目）	8/19, 8/26, 9/2	18名
	初めての人向けスマホ講座（3回目）	11/4, 11/11, 11/18	18名
	初めての人向けスマホ講座（ステップアップ講座）	10/21, 11/4, 11/18, 12/2, 12/9	18名
2	マッチングアプリについて	9/5, 9/25	6名
3	コミュニティすみれのスマホ講座	11/27, 12/4	16名
4	チューター養成講座	12/14, 12/21, 1/11	16名
5	中央公民館スマホ講座	2/17, 2/24,	20名
6	身体障碍（がい）者支援センター	1/27, 2/3	6名
7	中央図書館スマホ講座	3/14, 3/21	
8	シニアのデジフェス	3/6	100名 予定

3. 成果や課題点

(1)成果

生活の中に実用的に使えるスマホが浸透することができるようになるモデルが確立できたと思う。コロナ禍で募集人数が少ないにも関わらず、毎回応募者が多く、抽選に漏れた方から、また、学びたいという方が実施施設に訴求し、追加での開催が相次いだ。

シニアの学びたいという欲求をある程度満たすことができた。また、チューターというプチ就労は、働きたいというミドル・シニアのプチ就労として認知していただき、自分の学びが社会貢献になるということで両手をあげて受け入れられた。

(2)事業の課題点

チューター候補、チューターの管理。チューターの中には、講師として活動したいという方が多く、学びの継続とともに学びの実習の場の提供をしていかねばならない。シニアに心を寄せながら、指導するために、質を落とさないようにすること。

4. 今後の展望

宝塚での成果を進化・深化させ、成功モデルとして、兵庫県県下に拡大させて行きたい。

チューター、講師を増大させていきたい。